

和光会会報No. 40

－菱電サービス（菱サ）～三菱電機ビルテクノサービス（MELTEC）本社OB会－

◆ しまなみ海道の空中散歩……（2014-11）—山本拓弘（馬骨）さんから投稿頂きました—

しまなみ海道をご存知ですか。通ったことはありますか？ 本四架橋の話題も遠く過去のものとなり、今は橋があるのが当たり前のこととなりました。しまなみ海道というのは、その本四架橋の三つのルートの一つ、広島県尾道市から愛媛県今治市に至る、11の橋を渡ってつながる全長約59kmの天空の道に付けられた呼び名なのです。

2006年晩秋、思い立って中・四国を訪ねる1ヵ月ほどの旅に出かけました。その中での目的の一つは、しまなみ海道に係わる瀬戸内の何処かの島に寄って、何日間かのんびり過ごして見たいというものでした。

茨城県守谷市の自宅を出てから、信州を通過して北陸に抜け、日本海側を西に向かって、島根県の米子辺りから中国山脈を横切り、瀬戸内海側の尾道市に入ったのは、家を出てから1週間ほど経った頃でした。その間は、のんびりと知人宅に寄ったり、まだ寄ったことのなかった道の駅を訪ねたり、或いは家内の要請で、吹屋（岡山県ペンガラの



しまなみ海道多々羅大橋

向こうに見える島は生口島（広島県尾道市）

こちらは大三島（愛媛県今治市）

里）の史跡などを訪ねたりしながらの、気ままな旅でした。

しまなみ海道は、その2年前ほど前に一度今治側から通った

ことがあり、その時に生口島（いくちしま）にある平山郁夫美術館を訪れ、瀬戸田の町ののんびりと暖かい情景がすっかり気に入ってしまい、いつか機会を作ってここの島で数日を過してみたいと考えていたのでした。瀬戸内での島暮らしが叶うのは、しまなみ海道をつなぐ島を措いてはなく、他のルートでは無理なのです。今回はそれを実現すべく旅に出かけたのでした。

新尾道大橋を渡って、尾道市の対岸にある向島へ渡ると、もう此処からは島なのです。向島の中を一回りして、全体を見渡せる小さな山の頂に上ると、眼下に尾道の街の広がりが見え、その反対側には無数といってもいいほどの、大小の島々が海の中に溢れて見えるのでした。いやあ、しばらく味わったことのない感動の景観でした。

向島から因島大橋を渡って因島に渡り、ここで大橋の傍にあるパーキングエリアに車を置き、好奇心も手伝って、今通って来た因島大橋を今度は歩いて見ようと挑戦したのでした。この橋は2階建になっていて、車道は上の方にあり、歩道と二輪車は下の方を通るという構造でした。海上からの高さがどれくらいあるのか判りませんが、100m以上はあるように思われました。出だしは良かったのですが、途中うっかり下の方を見てしまい、足がすくみ、思わず屈みこんでしまいたい衝動に駆られました。実は、私は高所恐怖症の気があるのです。でも、屈みこんだりしたら、もう全く身動きが取れないようになってしまう気がして、冷や汗をかきながらの往復でした。全長1,270mの橋の往復は、真に肝の冷える時間でした

が、最初は恐怖の中にあったのが、復路を戻る頃になると、野次馬と好奇の心が生き返って来て、橋の下を移動して行く小舟などを時々覗くことも出来るようになったのには、我ながら驚いたものです。歩き終わると、不思議な達成感に満たされ、その後しばらくは、心地よい興奮が持続しました。その夜は因島のキャンプ場に一夜を明かし、翌朝は持参した釣竿を取り出して近くの岸壁で釣をしたのですが、釣果は中型の白ギス一匹と20cmほどの小鯛一匹だけでした。キスは塩焼きにし、小鯛の方は、鯛飯を作って味わいました。これで気分を良くして、もう一夜をここで過すことにしたのです。

この様にして、主な島々を一つずつ訪ねて、大島まで渡り、そこからはフェリーに乗って今治に上陸したのですが、この間に大三島には3泊して、島暮らしを十二分に楽しみました。この時に大三島（愛媛県今治市）と生口島（広島県尾道市）に架かる多々羅大橋（1,480m）を三往復したことが、今でも忘れられない思い出となっています。多々羅大橋というのは、しまなみ海道の11の橋の中では三番目に長い橋ですが、斜張橋としては世界一の大橋なのです。斜張橋というのは、橋の支柱から斜めにロープを張った構造の橋で、多々羅大橋には2本の支柱があります。遠くから見ると、鳳（おおとり）が羽ばたいているような美しい姿をしています。多々羅大橋は本四架橋の中では、どれよりも一番美しい姿をしている橋だと思います。その橋を三回も歩いて往復したという話です。

大三島には三つの道の駅があり、温泉も三ヶ所あって、くるま旅の滞在には、嬉しい条件が揃っています。最初は多々羅大橋の袂にある道の駅：上浦町多々羅しまなみ公園という所に泊まったのですが、目の前に羽を広げて聳える大橋を見上げている内に、「そうだ、あの橋を歩いて向こう側の生口島まで行ってみよう！」と思ったのです。家内にも異存はありません。というのも、二年ほど前に此处を通った時、生口島にある瀬戸田パーキングエリアに車を置いて、多々羅大橋を途中まで歩いてみたのですが、あまりの恐ろしさに気分が悪くなり、二人共すごすごと引き返したことがあったのです。今回はその汚名挽回も兼ねてのチャレンジでもあったのです。勿論、大三島側から歩くのは初めてのことです。橋の袂の細い坂道を15分ほど登ると多々羅大橋の入口に着きました。橋には車道の他に歩道があり、歩道は小型バイクや軽車両も通行可となっています。人は無料で通ることが出来ます。

今日はかなりの強い風が吹いていて、何だか橋も揺れそうで足を踏み出すにはかなりの勇気が要る感じでした。橋の全長は1,480mもあるのです。往復すればそれだけで3kmにもなるのですから、バカにはできない距離です。なるべく下を見ないようにしながら歩き始めました。1/3ほど行った所に、多々羅鳴き龍というのがあります。これは以前瀬戸田パーキングエリアから歩いた時に、そこまで行ってギブアップして引き返したので良く覚えているのです。その場所は丁度支柱のある所で、そこで両手を打つとその音が反響して「ウオ〜ン」と聞こえるのです。鳴き龍と呼ばれるものでは、日光の東照宮薬師堂の天井など、全国に幾つかあるようですが、この橋の鳴き龍は、やや不風流ではありますが、最新のものと且つ最大規模の鳴き声なのではないかと思います。支柱の鉄骨脇に置いてある拍子木でバチン！とやりますと、「ウオ〜ン」と返って来るその迫力はかなりのものです。高所を渡る恐怖心を忘れようと、拍子木を懸命に何回も打ち続けたのです。

前に行く家内の歩きのスピードはかなりのもので、なかなか追いつけません。怖さというのは、人間をより活動的にすることもあるのだなと、その時思ったのです。汗を掻きながら（半分以上が冷たいものだったのかも）20分ほどかかって、生口島の方に渡ることが出来ました。いやまあ、そのホッとしたこと。緊張から解放されて瀬戸田パーキングエリアの方へ歩き始めると、道の脇には一面、黄金色に輝くミカンをたわわに稔らせた畑が、海に下る急な斜面に広がっていました。みかん畑の向うには瀬戸内の海が銀色に鈍く光っています。橋を渡った時の恐怖心は、あっという間に消え去ってしまったのです。

みかん畑の脇道をしばらく歩いて、瀬戸田パーキングエリアに行き、これで往路は完歩です。ここのパーキングエリアには、名物のたこ飯があります。ご飯の中に地蛸を炊き込んだだけの素朴な食べ物ですが、これが実に美味しいのです。この味を堪能して一休みした後は復路の出発です。同じ道を通って、もう一度橋を渡ることになります。みかん畑の脇道には、何力所か無人の販売所があり、100円玉を入れると、数個のみかんを手に入れることができます。昨日はこれを知らず、他の場所でみかんを買ってしまったの

は失敗でした。ミカンの他にも青いレモンがあるのを見つけて、それを買うことにしました。瀬戸内の青いレモンも、大好きな香りの食べ物です。帰りの渡橋は大分に落ち着いて、巨大な橋桁の遥か下の方に巨大な渦を巻く海流にも目を向けることができるようになりました。慣れというのは人生には必要なものなのだ、などと妙に大げさなことを考えたりしながら、今日の空中散歩を終えたのでした。

その日は、大山祇神社(おおやまつみじんじゃ)の直ぐ傍にある道の駅に泊まり、早朝に神社に参拝しました。大山祇神社は瀬戸内の海賊(＝海族)の守護神として有名な所ですが、境内にある樹齢3千年とも言われる楠の老大木には、驚き圧倒されるものがあります。それが何であっても、千年を超える生命には、自ずと他を圧倒するものがあるようです。

参詣の後、今日もう一度多々羅大橋を歩くことにして、再び橋の袂にある道の駅に車を置き、散歩を開始しました。今日は昨日以上に強風が吹き荒れていて、手で押さえていないと帽子が吹き飛ばされてしまうほどでした。しかし橋を渡ることにはかなり慣れて、さほど急ぎ足でなくても、辺りの景観を楽しみながら歩くこともできるようになっていました。橋の半ばくらいに来た時に、東京在住の知人からメールが入りました。旅の様子を訊ねて来たものです。「いま、多々羅大橋を散歩している」と返信しましたが、このようなとんでもない場所からとは想像などできる筈もなく、あ、そう、という程度の受け止め方しかされないのだらうなと思いました。まさか天空に架かる橋の上からだとは想像できないと思います。密かなる優越感を、ちょっぴり感じたのを告白しなければなりません。

昨日と同じように瀬戸田のパーキングエリアまでの折り返しのコースの歩きでしたが、今日はたこ飯などは食わず、家内のお八つ用の塩餅というのをゲットしただけでした。帰りの道はもうすっかり慣れて、余裕たっぷりの歩きでした。

その日も大三島の道の駅に泊まって、翌日には3回目の空中散歩に出かけました。この日はもうすっかり普段の歩きと同じようになって、少しもビクつかずに往復することが出来たのですが、帰りに雨に降られてしまい、傘を持参しなかったため、大濡れとなってしまいました。今日で大三島を離れ、明日は一つ先の島に移動することにしていましたので、瀬戸田パーキングの中の店で、島で栽培されているデルフィニウムという蘭の小鉢を、今回の空中散歩の記念に買って持ち帰りました。

というように、この空中散歩はたった三回しか出来なかったのですが、とても貴重な思い出となっています。もし大三島か生口島に住んでいたなら、多分毎日この散歩を楽しむに違いないと、今でも思っています。そして、いつかもう一度しまなみ海道を訪ねて、もう一度天空の散歩をしながら、命の洗濯をしたいと思っています。



大山祇神社境内の楠の老樹

この樹の近くに樹齢3千年という能因法師雨乞いの楠という老樹があるが、半ば枯れかけていた。この老樹も軽く千年は超える生命を保っているようだ。

◆ 会員の趣味のコーナー

先回より第12回和光会総会の展示作品をご紹介しますが、今回も引き続き3名の方の作品をご紹介します。

今回もこれらを始めた時期(年数)・動機、作品を制作しての喜び(感動)、苦勞したこと、「他に取り組んでいる趣味」などを含めて紹介いたします。

なお、出展出来なかった方の作品・趣味についても出来るだけ順次ご紹介をしていく予定です。

◆ 写真・竹細工

…… (2014-06) —和田 昭喜さんから投稿頂きました—

写真(1点)

「旅立ち」(四つ切ワイド)



自宅廻りの空き地に咲いているタンポポの綿毛が風で飛んでいたもので、残りの1輪から飛出す瞬間を狙って撮影した。

所属写真クラブの展示会及び文化祭等にて発表。

タンポポの綿毛が風で飛ぶ瞬間を捉えるのに苦勞した。

竹細工(5点)

退職した際に地域活動の町づくり同好者と集ううちに、竹細工の行燈・昆虫・花器等の製作者と出会い、小生も昔の民芸竹細工等に取り組むことにした。

平成20年頃から活動(昔、息子のボーイスカウトの送り迎えの合間に箸やホーク等を小刀でイタズラしていた)

一昨年度までは町の文化祭・市民活動フェアにて発表。昨年は所属会が解散の為、文化祭への出展は無かった。本年度は新会の活動実績を基に文化協会に申込み済みの為、会員作品を文化祭にて出展の予定。

今年はジャンボゆらり蜻蛉に挑戦したが、想定外の変荷重があり、試行錯誤しながら完成させた。

朝日新聞にも紹介記事が掲載され、感謝・感謝。龍ヶ崎市民活動センターにて常時展示中です。

①へら竿 9尺4本継【総竹製・漆塗り】



②タナゴ竿ケース【篠竹製・漆塗り】



③姫鏡【本漆塗り梨地・平蒔絵】



④コップ 【拭き漆塗り・口元淡口蠟色仕上げ】



⑤ゆらりトンボ（バランスとんぼ）【真竹製】

- A 羽根長さ・・・・・・135センチメートル
- B 全長・・・・・・180センチ



平成26年3月23日付・朝日新聞首都圏茨城版の
紹介記事



◆ 木版画（2点）

.....（2014-06）—鈴木 廣行さんから投稿頂きました—

①「川越の風景」



H25年2月に埼玉県富士見市に引っ越して来たのを機会に川越に足を運ぶことが多くなりました。蔵の街を絵にしようと意気込んでもスケールが大きすぎてなかなか難しい。何気なく立ち寄った蔵造りの街並みを見下ろせるイタリアンカフェから見た風景を一枚の木版画にまとめてみました。屋根瓦、観音開き扉がそこそこ表現出来自己満足の作品となりました。

②「ニコライ堂」

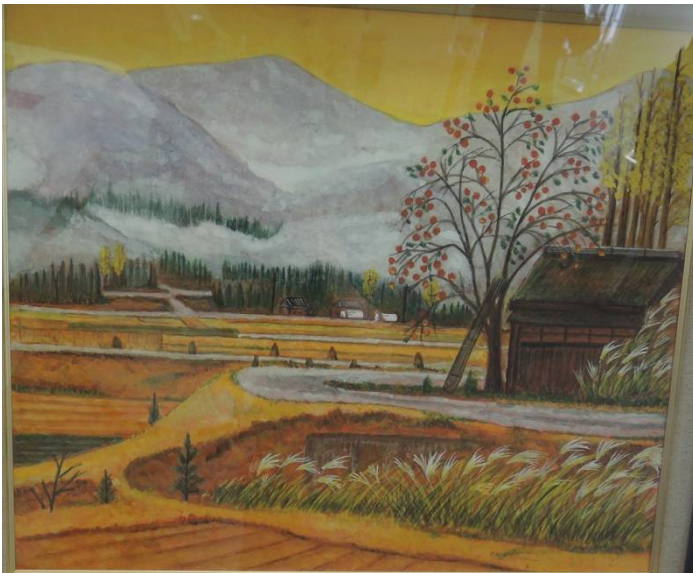


行きつけの画材やが御茶ノ水にある関係で店に行くたび必ずニコライ堂に立ち寄ってくる。ビルの谷間にうずもれる感じがしてなんとなく可哀そうであり、スケッチをするとニコライ堂がかすんでしまう。何回かの失敗を重ね背景のビルとの融合がそこそこ上手くいったのがこの作品である。思いを込めれば込めるほど上手くゆかないのが世の常であることをつくづく痛感した「ニコライ堂」の版画である。

◆ 日本画（2点）

……（2014-06）—布施 昌義さんから投稿頂きました—

①「里の秋」（日本画F8号）



里山の秋景色を描きたいと昨年の秋に近隣の里山にスケッチに行きました。絵にしたい場所が見つからなかったので、いくつかの場所の合わせたものです。

（本来はスケッチとしてはよくないかも）特に山は房総の山ではありません。柿の木と山の裾野にかかる霞の描き方が難しいと感じています。

②「嵯峨野」（日本画F8号）



京都の竹林は2作目ですが、竹そのものの描き方がうまくいきませんでした。

本来は竹林のなかで枯れて変色した竹も多くありましたが全体のバランスを考えて少なめにしました。嵯峨野の竹林の生垣も少し丁寧に描くべきだったと思います。また生垣の高さがやや低く描いてしまった点が反省点です。

◆ 原田長治氏が藍綬褒章を受章!!

和光会会員で、現在全国ビルメンテナンス協会の副会長をされている原田長治氏が昨年秋の褒章で藍綬褒章を受章されました。

原田氏はビルメンテナンスを通して「生活衛生功績」で受章されました。

褒章受章者は県別に報道されており、各新聞の県内版で千葉県内にお住まいの方はご存知の方もおられると思いますが、県外の方はご存じない方もおられると思いますのでご連絡いたします。

皆さんでご祝福しましょう！

(なお、E-MAIL 会員各位へは INFORMATION No.1 2 2 でご連絡申し上げました)

◆ 訃報ご報告

元取締役社長 坂田 邦壽氏

2014年10月18日、元取締役社長 坂田 邦壽氏 が逝去されました。(享年89)

ここに哀悼の意を表し、謹んでご報告申し上げます。

なお、故坂田 邦壽氏は1950年に三菱電機株式会社に入社され、1985年に同社常務取締役機電事業本部長、1987年に同社専務取締役社長室長を歴任され、1989年6月に菱電サービス株式会社取締役社長に就任されました。1993年に社長を退任され、常任相談役に就任、1997年に退任されました。

また、E-MAIL 会員各位へは INFORMATION No.1 2 3・1 2 4 でご連絡申し上げましたが、下記の方がご逝去されました。改めてここに哀悼の意を表し、謹んでご報告申し上げます。

大沼 浩明氏(2014年12月11日ご逝去)(享年77)

なお、故大沼 浩明氏は1961年4月菱電サービス(三菱電機ビルテクノサービス)に入社。東京工場電動機課を皮切りに工作課 電動機係係長、生産管理係係長を経て、1974年4月東京支店 エレベータ部 城北営業所副所長、1976年4月本社人事部 教育センター所長、1980年12月東京西支社 昇降機部に転任。同 部長代理・GL、ビルシステム部GLを歴任。1985年4月本社TQC推進室室長代理、その後、本社総生 総務部、本社 人事部等で活躍され、1998年3月退職されました。

藤尾 正敏氏(2014年12月13日ご逝去)(享年67)

なお、故藤尾 正敏氏は1970年4月菱電サービス(三菱電機ビルテクノサービス)に入社され、大阪支社、大阪支社京都営業所 保守係の後、1981年8月中国支社昇降機工務課 保二係、1985年11月中国支社ビルシステム工務課課長、その後中国支社ビルシステム部広島営業所所長を歴任。1989年4月中部支社栄営業所工務第一課課長。中部支社栄支店業務G部長代理を経て、1994年4月本社品質保証本部品質管理部 に転任。1996年から2008年3月定年退職されるまで本社サービス技術本部 環境保護推進室、本社 品質保証本部 品質保証推進部等にて ISO(環境管理)で活躍されました。

定年後も2011年3月までシニアキャリア社員として ISO(環境管理)で活躍されました。

◆ 事務局より

- 和光会会報No.34より「くるま旅くらし心得帖」の山本拓弘氏よりくるま旅について投稿いただいておりますが、前回(No.39)会報発行時は夏の旅で青森・北海道方面にくるま旅に出かけていたようです。今回は秋の旅(北陸・関西・中四国への旅)出発直前にご投稿をいただきました。

山本拓弘氏の「くるま旅くらし」の最近の様子は下記ブログに載っておりますので是非ご覧ください。

<http://blog.goo.ne.jp/vacotsu8855>

「山本馬骨」で検索しても可能です。

- ・ 「会員趣味のコーナー」では第12回和光会総会の展示作品の中から、常連となりました和田昭喜さんの写真・竹細工、鈴木廣行さんの木版画、それに布施昌義さんの日本画の3名の方の作品をご紹介させて頂きました。和田昭喜さんの今回の竹細工の中に 羽根の長さ 135cm、高さ 180cm と巨大なトンボの作品があり、びっくり致しましたが、展示の際にバランスをとるのに苦労致しました。
- ・ 和光会会報No.38でご紹介しました**MELTEC創立60年記念社史「60年のあゆみ」頒布**について申し込み後の11月・12月にも頒布希望がありました。会社に相談したところ、若干在庫がありましたので対応いたしました。これから頒布を希望される方には在庫がある場合、前回同様下記方法にて頒布いたしますので、「MTB和光会事務局」にご相談ください。対応可能であれば振込用紙を送付いたしますので下記口座にお振込願います。お振込の確認が取れ次第ご送付いたします。

MTBの担当は総務・人事支援部（部長：武田 修）で、連絡・問い合わせ窓口は下記のとおりです。

担当：石田 繁治、丸本 慎也、大澤 淳子

電話：03-3803-8865（代表）

FAX：03-3803-8875

E-mail：marumotos@mtb.ssg.meltec.co.jp

（1）製本版（箱入り）※全編 A4サイズ 167ページ 単価 ￥3,000

運賃着払いの宅急便にて送付

（2）特別編集版 ※通史以外を編集 A4サイズ 111ページ 単価 ￥500

次回送付の「1194」「和光会会報」に同封（送料無料）

なお、（1）（2）とも同時にご希望される方は（1）（2）とも同時に運賃着払いの宅急便にて送付いたします。

振込先：郵便局

口座番号：00100-7

口座記号：650896

加入者名：和光会

- ・ 2014年度の会費納入対象の方は2005、2008年および2011年に入会された方々と会報No.37でご連絡し、対象者宛に「1194」「和光会会報」送付時振込用紙を同封いたしますが、会費「4,000円（2年分）」が未納の方がおられますので次の口座宛に振り込み賜りたくよろしくお願い申し上げます。

なお、振込用紙を紛失された方は事務局あてご連絡くだされば再度送付いたします。

振込先（郵便局）・口座番号（00100-7）・口座記号（650896）・加入者名（和光会）は前記社史「60年のあゆみ」と同じです。

- ・ E-MAIL 会員各位へは INFORMATION をお送りしておりますが、最近不達が増えておりますので、**メールアドレスの変更時は速やかにご連絡**をお願いいたします。
- ・ 「和光会会報」・「1194」・カレンダーなどを会員宛送付しておりますが、宛所不在で戻ってくる場合がありますので、**転居・住所表示変更等の場合は速やかにご連絡**をお願いいたします。
- ・ パソコンのある方は、会報や総会写真を下記和光会ホームページに掲載しておりますのでご覧ください。
<http://www.geocities.co.jp/Milkyway-Kaigan/5992/>

皆様の日頃の活動やグループ活動などのお便り・投稿をよろしくお願いいたします。

2015-1-15 和光会事務局 寺門 三男

029-872-4122 mitsuotera@jcom.home.ne.jp